



Nakatsu Gion Festival 2025

中津祇園



約600年の歴史と伝統
受け継がれし伝統が
勇壮華麗に城下町を駆け抜ける

大分県指定無形民俗文化財

令和7年 7月25日(金)・26日(土)・27日(日)

闇無濱神社・中津神社

引き出し

- 祇園車町内まわり (午前8時頃～) (闇無濱神社・中津神社各町内周辺)
- 中津祇園 市民花火大会 (午後8時～) (小祝漁港周辺)
- お宮入り (花火大会終了後) (闇無濱神社・下祇園 6台)

朝 車

- 御神幸(下祇園)・御巡行(上祇園) (午前5時頃～)
- 福澤通り歩行者天国「お祭り広場」 (午後5時頃～)
- 市民総踊り (午後5時頃～) (福澤通り)
- 祇園車共演 (午後7時頃～) (福澤通り)
- 練り込み (午後9時頃～) (闇無濱神社・中津神社)

辰 車

- 御神幸(下祇園)・御巡行(上祇園) (午前8時頃～)
- 福澤通り歩行者天国「お祭り広場」 (午後5時頃～)
- 練り込み (午後8時頃～) (闇無濱神社・中津神社)



中津祇園 市民花火大会

日時 7月25日(金) 20:00 打上予定

場所 小祝漁港広場・小祝グラウンド

「中津祇園市民花火大会実行委員会」による花火大会が、中津祇園の初日に開催されます。会場となる小祝漁港広場では、「中津バル」などのアトラクションも開催される予定です。

※小雨決行 ※駐車場は台数に限りがあります。

主催／中津祇園市民花火大会実行委員会 (中津商工会議所内 ☎0979-22-2250)

豪華景品が当たる!!

祇園福引き販売

販売期間 7月25日(金)～27日(日)

闇無濱神社・中津神社

最新情報は公式サイトを
ご確認ください。



中津祇園保存協議会
https://nakatsu-gion.com



中津祇園とは

中津祇園は、10万石の城下町中津を代表する祭で、疫病退散と無病息災の祈願を目的に毎年7月に行われます。闇無濱神社を中心として行われる「下祇園」と中津神社を中心として行われる「上祇園」の二つの祇園祭が同日開催され、合わせて「中津祇園」と称されています。華麗な13台の曳車と、2基の御神輿が中津の城下町を御神幸・御巡行し、高バが張られた辻々では祇園車の舞台上で華麗な民舞等が奉納されます。

下祇園 四番車

姫路町踊車



明治17年建造の車の改造を明治36年(1903)に発起しましたが、日露戦争のために中断し、大正2年(1913)に再建を開始して大正3年6月22日に完成しました。昭和6年(1931)に一階車を二階車に大改装し、現在の姿となりました。その後、昭和32年、42年、平成5年、7年と修理・改装を行っています。平成25年(2013)に、台輪を新調しました。

上祇園 先 車

古博多町踊車



明治28年(1895)に建造されました。大工棟梁は中津の名匠と言われ、「蓬莱館」などを建築した賀来政市氏です。上八町の車の中で最もバランスの良い車だと言われています。総けやき作りで、台輪の彫りは諸町と同様です。初代の車は、豊後町の車にたいへんよく似ていたそうです。二代目の車は、大分県宇佐市長洲に売却されました。

上祇園 五番車

殿町踊車



大正10年(1921)より5年間の歳月をかけて建造され、平成11年に総漆にて建造当時の姿へ復元されました。総けやき造りの車で、正面欄間には龍の彫刻、両側には虎、竹、獅子の彫刻が施されています。初代の車は福岡県豊前市八屋祇園の前川区へ売却され、近年まで活躍していたそうです。

下祇園 先 車

下正路町舟車



天保3年(1832)の建造で、下小路浦在住の舟問屋播磨屋代吉と紙屋仁左エ門より寄進されました。中津祇園唯一の舟車で、御座船を祇園車に載せています。下正路町舟車の扁額には「天鳥丸」と鳥形文字で書かれていて、奥平家寄進の言い伝えがあります。「嘉永七年六月朔日 下正路庄屋」の裏書が確認されています。

下祇園 五番車

桜町踊車



明治28年(1895)6月に一階車として完成しました。昭和9年(1934)に、改造計画が総町会で決議され、着工2年後に完成しています。後軒見送りの鳳凰の彫刻と扁額には、明治28年の裏書が残っています。改造当時、桜町は豊前屈指の花街であったため、車の至る所に繊細で豪華な飾りが施されています。

上祇園 二番車

京町踊車



明治24年(1891)の建造で、可倒式の祇園車です。二代目の車で、初代の車は大分県玖珠町の森祇園に売却されました。鬼板は、中津祇園唯一の「獅子嘴」です。大正12年(1923)に大改造を行い、平成3年(1991)に車上部を新築しました。このとき、目釘一本に至るまで、寸法を記録したそうです。この年は白木で参加し、翌平成4年に塗りが完成しました。

上祇園 六番車

片端町踊車



二代目の車で、明治28年(1895)に建造されました。片端町の祇園車は「仏壇づくり」とも言われ、大量の裝飾金具が用いられています。殿町の祇園車と兄弟車で、昭和3年(1928)に二階車へ改造されました。昭和62年(1987)に全面塗り替えおよび大修理が行われています。初代の車は、福岡県豊前市八屋祇園の下町区に売却されました。

下祇園 二番車

龍王町踊車



昭和18年(1943)までは舟車であり、下祇園の先車(一番車)でした。朝車のお発ちと、辰車の練り込みでは、御神前で「松前音頭(舟山車引出歌)」が唄われます。大正14年(1925)に「新浦」の町名を「龍王町」へ改名し、昭和21年(1946)に舟車から踊車へ改造しました。他町の祇園車に比べて、折り屋根の棧の間隔が狭いのも特徴です。

下祇園 六番車

豊後町楽車



豊後町の車は中津祇園史上最初の祇園車であり、現在の祇園車の原型と言われています。昭和33年(1958)ごろを最後に祇園祭には参加していませんでしたが、青年有志の手により、平成25年(2013)、50数年振りに御神幸に復帰し、「影向楽」が復興しました。

上祇園 三番車

諸町踊車



明治24年(1891)の建造です。三代目の車ですが、いくつかの部品は初代の車から受け継いでいます。可倒式の車で、町内在住の職人の手により建造されました。二代目の車は、明治23年に大分県玖珠郡玖珠町森祇園の上町中町組に売却され、その後大正初期に北山田祇園へ売却されました。また、先代の車は、福岡県豊前市八屋祇園の八幡町へ売却されたとの説もあります。

上祇園 七番車

古魚町踊車



大正10年(1921)に滋賀県長浜市の曳き山を参考に建造されました。二階は「入母屋葺式造り」と言われ、正面屋根上には鯢をのせています。正面懸魚には鳳凰、欄間には龍と獅子の彫刻が施されています。欄間は金の龍で、町内では宝物と呼ばれているそうです。初代の車は、福岡県豊前市宇島祇園の魚町に売却され、現役活躍中です。

下祇園 三番車

堀川町踊車



明治40年(1907)に日露戦争戦勝祝いとして、材料費62円で完成しました。現在の車は三代目で、欄間は二代目の車より受け継ぎました。初代の車は文政8年(1825)に藩主奥平昌高公より、二代目の車は慶応4年(明治元年、1868)に藩主奥平昌邁公より拝領しました。二代目の車は明治40年(1907)に欄間だけを残して、福岡県田川地方に33円で売却されました。

闇無濱神社御神輿

角木町



角木町は他の町内と違い、闇無濱神社の御神輿を担いで御神幸しています。神社の御輿蔵には、現在も三基の御神輿がありますが、担ぎ手の人数の都合から、いつからか一基で御神幸しています。平成10年に八坂の紋の入った御神輿が新調されました。辰車の夜、闇無濱神社に到着した祇園車、御神輿は、練り込みを行います。最後まで御神体を還さずに練り込みを行うのは、御神輿だけです。

上祇園 四番車

新博多町踊車



昭和5年(1930)の総町内会で新造を決議し、4,823円80銭(当時の新築家屋5軒分)で建造され、昭和6年に白木にて完成しました。昭和7年に塗りが完成しました。平成26年(2014)に全面塗り替えを行いました。二階は、京都祇園の影響を最も受けた切妻式で、破風には金箔を使用し、丸みを持たせているのが特徴です。車の重心は、他の車に比べて中央部分に集中しています。

中津神社御神輿

新 魚 町



現在、新魚町は中津神社の御輿を担っていますが、戦前までは祇園車が出されていました。昭和5年ごろに大分県宇佐市四日市に売却され、新造計画が何度かなされたようですが、戦争の混乱のため、やむなく中止されました。売却された車は、宇佐市四日市の桜岡八幡宮の天神祭にて、「新町」の山車として曳行されています。